

山本 富雄

(市政・市民クラブ)

観光開発について

質問 当市には桜の名所があちこちにあり、新幹線全線開通は、当市を桜のまちとして売り出す絶好のチャンスと考えるが、当市の桜の木はどれほどあるのか。

答弁 桜の木は、中央公園二百五十九本、三木野公園八十二本、官庁街通り百五十六本、稲生川沿い二百二十本、また、学校教育施設には、小学校五百二十七本、中学校三百五十一本が植えられている。

質問 春まつりに十六万人余の人数があつたようだが、各観光関係団体との連携は十分だったか。

答弁 今年の春まつりでは観光案内、物産販売の受け入れ等に課題があつたことから、次年度に向けて今年の問題点を整理し検討していかねければならない。来年度は青森デスティネーションキャンペーンにより、今年以上の観光客の増加が予想されることから、市観光協会、商店街関係機関、

団体との連携をさらに強め、市の活性化につながる方を構築していかねければならない。



官庁街通りの桜

病院経営について

質問 委託業務は見直すべきではないか。

答弁 委託業務は、医療事務関連業務、施設関係業務、医療機器保守業務に大別され、基本的には指名競争入札で対応しているが、医療の専門性、特殊性を必要とする業務は随意契約としている。

見直し作業は経営戦略会議で行う予定であり、保守点検作業を含む全ての業務委託の洗い出しを行っている。今年度中に変更可能なものは随時対応していきたい。その目標値、目標額については七月には出した。

今泉 勝博

(市政・市民クラブ)

口蹄疫について

質問 当市では口蹄疫についてどのように考えているのか。

また、畜産農家の指導対策はどのようになっているのか。

答弁 口蹄疫は、一たび発生すると、市の畜産業はもとより、経済活動や市民生活全般にわたって深刻な被害をもたらすことが懸念され、大きな脅威であると考えている。このため、四月に宮崎県内で発生が確認され、その感染が大きく広がった状況を受け、当市では五月十九日に市内の全畜産農家に防疫の徹底を呼びかけるチラシと、十和田家畜保健衛生所発行の家畜衛生情報を配布した。また、二十六日には十和田市口蹄疫防疫連絡会議を立ち上げ、随時家畜衛生情報等を全畜産農家に個別に配布するほか、各種会議においても繰り返し情報の提供を行い、関係者が一丸となって防疫対策の徹底を図ることとした。今後連絡会議を主体

として、迅速かつ正確な情報提供等に努めたい。

日本三大開拓地交流事業について

質問 平成二十二年度は当市での開催となっているが、宮崎県川南町の口蹄疫の状況を踏まえ、交流事業をやめるべきではないか。

答弁 当該事業は、平成二十三年一月に当市で開催することになっているが、当該事業により口蹄疫感染の可能性が危惧されることを踏まえ、今後交流自治体である矢吹町、川南町と十分に協議し、関係機関からの情報収集に努め、慎重に対応しなければならない。

交流事業の出発式から

野月 一博

(高志会)

定住自立圏構想の推進について

質問 人口減に対処するため、近隣市町村が相互に連携・協力して魅力ある地域づくりを目指す、いわゆる定住自立圏構想(注)をどのように推進していくのか。

答弁 集約とネットワークの観点から、近隣市町村がさまざまな分野で相互に連携、協力しながら、定住のために必要な諸機能を確保し、魅力あふれる地域づくりを推進していくことは重要である。本年二月の上十三地域広域市町村圏協議会の市町村会議でも同構想の取り組みを進めていくことが確認されているため、今後連携可能な部門について協議を進めていきたい。

東北新幹線全線開業に向けた取り組みについて

質問 野外芸術文化ゾーンを生かした情報発信、また、開業効果のための準備をどのように進めているのか。



アート広場から

答弁 今年四月から市観光協会と共同で観光ポータルサイトの開設と内容の充実、情報の随時更新に努めており、来年度実施される青森デスティネーションキャンペーンへの共同参加、新たな青森の旅・十和田湖広域観光圏、十和田エイト・ライン観光協議会におけるプロモーション活動と連携し、魅力ある観光情報を発信していきたい。